

● 日本蟹類通説 (第六回)

寺崎留吉

拳蟹科 *Leucosinae*

甲殻の額縁は肩と相聯絡せず必ず角稜を呈す(前科と異なる) 甲殻の側面は鉗脚より前方にて胸壁と相連絡し區域を呈せず(特徴)

大觸角は概して眼窩と相離れざるを常とす

鰓室一の吸水孔は頰部に開かず口腔内にありて上外側よりす(前兩科と異なり) 吐水孔は別て筒状をなさず

外顎脚は左右相接比し末節は其中間に隠蔽せらる(金線蟹族に等し)

甲殻の背面一般に平滑にして著しき溝線を呈せず

鰓の數は八對乃至六對とす

本科を分つて左の二族となす

(甲) 旭蟹族

(213) 腹部は各環節可動的に連結して決て癒合せず、且つ胸壁に密適せず、歩脚は多少游泳に適し末列の歩脚は稍甲背に偏す、鉗節扁平なり

(乙) 拳蟹族

腹部は環節多く固着し胸壁に密接す、歩脚は平等に發育して異常なし鉗は扁平なること無し

◎ 旭蟹族

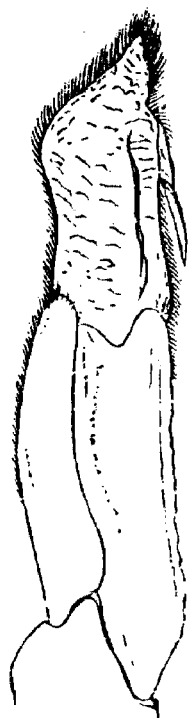
Raninidae, Dana, 1852.

甲殻略ぼ楕圓形にして甲背は溝線區劃を示さず其額縁は廣狭一定せず歩脚は多少扁平にして游泳に適し末列の一對は稍背後に偏在す腹部は環節可動性にして固く癒合することなく且つ他の蟹の如く胸壁に密合せず半ば弛みて後方に伸ぶるの傾あり胸壁は後方著しく狹隘にして體の外形歪尾類(寄居蟹類)に近縁を示す故にヘンデルソン氏は其著書中歪尾類の條下に收めたり然れども本族を蟹類に容れせしむ可きを氏自ら唱言せり

外顎脚は細長にして口腔を掩ひ眼窩深く小觸角は特別の竇を有せず

旭蟹屬 *Raniba, Lamark, 1801.*

本屬に含むもの唯一種なれば左に其種名並に特徴を掲げ



て以て属徴に代ゆ

(あさひがに) あさひがに Ranina Rainna (Lin.)

複名 || Cancer raninus, Linné, 1764

= Ranina serrata, Lamourk, 1801.

あさひがに
(自然大)

並に顎外脚右半

|| *R. dentata*, Latreille, 1824.

|| *Alburnea scabra*, Fabricius, 1798.

如斯幾多の複名を有するものなれば愈最初の種名に最適當の属を冠せしめなば *R. Ranina* (Lin.) を訂正するの外なかる可し

引用原書 Siebold, Fan. Jap. Crust. st. p. 139.

Pls. XXXIV, XXXV figs. 1-4.

甲は適度の厚さを有し額肩の部分に巨大なる扁棘を列生す兩側は極めて緩漫なる弧を畫きて甲尻に向て軽く傾曲す胸廓の後部左右歩脚の中間極めて狭く腹部は雌は勿論雄にありても七環節明かに分たる且つ族徴の中に述べたるが如く腹部は胸壁に密接せず緩に屈曲せり歩脚の最後一對は他の三對より列を離れて背上に偏りて生ず、口顎の構造は宛然、金錢蟹並に次の拳蟹の諸類に似たり

甲背は一面に鱗片状の棘疣を以て掩はる皆前方に向つて櫛比せり、甲の周縁は亦細き棘疣の線を以て割せらる。額は正中に一個の扁平なる單棘を具へ其より兩側に並列して扁平なる棘齒あり額に近き所にては唯三稜形なれども兩側に離るゝに従ひ追次發育して山字形、手掌形に移る、眼窩は深く凹み比較的細き眼を藏す其内下隅に小觸角ありて堅てに屈折す、又眼窩の外側下隅よりは太く短くして複雑なる構造を有せる大觸角を發す此の觸角は茸毛を有し眼窩に精適して眼のため完全なる保護をなす

(215) 外顎脚は口腔を蔽ふて尙ほ餘りあり其跗節は著しく抽出でゝ剃刀状をなし眼窩の下に達し次節は細くして全く潜伏す、鉗脚は左右平等にして一般に鱗状の皺襞を呈し第五節は末端に二小棘を具へ鉗は扁平にして内側に粗き鋸齒を有し外側は三個の鋭棘を出だす剪器は鉗脚の長軸と直角の方向に運動し鈍き齒列を帶ぶ歩脚の各節は扁平にして游泳に適し側縁に饒かなる絨毛を茂生す
印度太平洋方面に産し甲色朱紅にして美しく容易に識別

日本蟹類通説(寺崎)

せらる頭胸甲殼の長さ五寸に達し腹部之れに半ばす、理科大學所藏の標品は左の諸地より來れるなり

一、相模三崎城ヶ島沖 (臨海實驗場所藏)

二、伊豆大島、波浮港(三十五尋) 雌 二、(一八九六年)

「ゾルデン、ハイन्द」號探險船)

三、朝鮮釜山港 雌 一、(乾製)(一九〇一年四月手島利奥

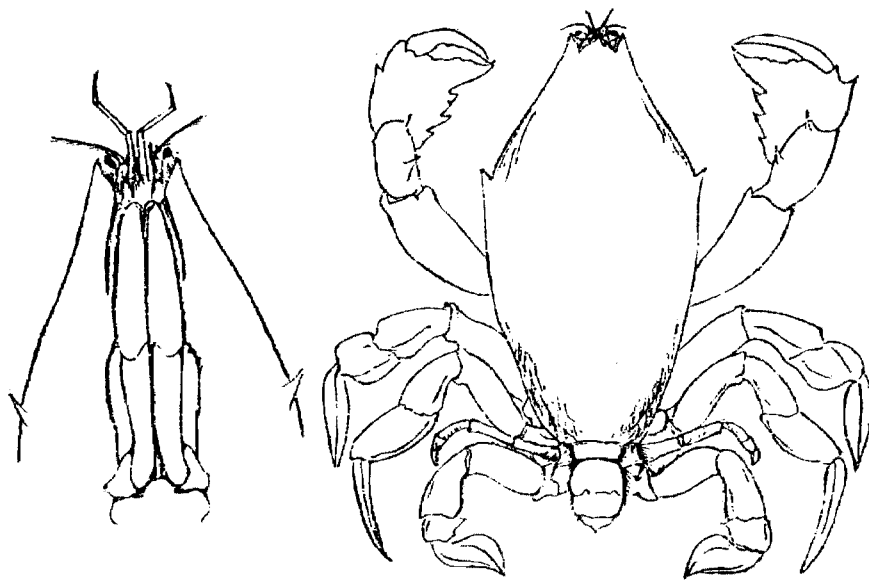
氏寄贈)

●琵琶蟹屬

Lyreidus, de Haan, 1850

甲殼は長楕圓形にして長軸に沿ふて穹起し前方は後方より稍狭し其表面平滑にして極めて微かなる梨子地を呈す額縁狭小にして三尖し其中央の一尖は額にして鋭三角をなし眼窩は其兩側に位して深く凹入す窩側茸毛を以て保護し眼柄小くして全く潜伏するを得、大小の觸角は鞭状部共に同じ大きなれども大觸角の根基は稍發育して眼窩の下底を構成す、外顎脚の跗節は長大にして蹠節よりも大きく口腔の全部を閉塞して餘りあり次の二節は全く縮少して左右跗節の間に夾まれ殆んど外に表れず、胸壁は

(216) 第二步脚の着点以下急に狭くなりて腹部之れを掩ふ腹部は七環節明らかに分れ細くして且つ屈伸自在なり



に か は び

(大 然 自)

す 示 を 脚 顎 外 面 腹 部 頭 に 並

鉗節は左右等形にして第五節は彎曲して外方に二小棘を具へ、鉗は稍扁平にして周縁に向て薄し其外側に一個、

内側に大小二三の齒を帶ぶ剪機は斜めに開閉す尖端は曲りて鷹嘴状をなす、歩脚は稍や游泳に適し第三脚は末節最も扁平なり反之末脚は縮小して背後に偏在せり本屬に隸するもの僅數にして東洋に凡二種、米國大西洋沿岸に一種ありと記載せらる

(一) びはがに *L. tridentatus, de Haan, 1850.*

引用原書 Siebold, Faun. Jap. Crust. p. 140, pl. xxxv fig. 6.

甲殼長徑凡そ一寸半、横徑一寸、兩脇に各一個の小銳棘ありて斜めに前に向ふ腹部第四節に一小棘を具ふ本邦相摸洋沿海に産す其他は濠州フ井ジ一群島にて採集せられたるのみ産地極めて稀れなり本學藏品左の如し

一、相摸三崎 雄一、

二、同 城ヶ島 幼一、(一八九九年八月)

三、同 同南沖(八〇尋) 雄一、(一八九四年五月)

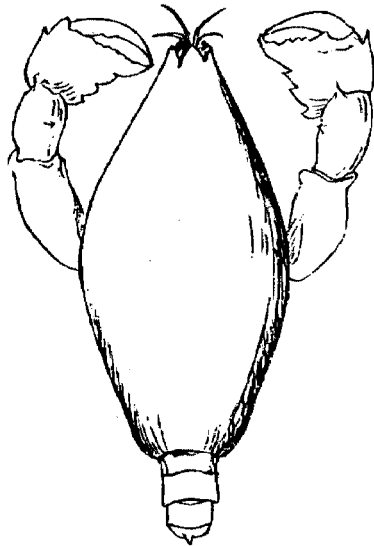
四、相摸洋ヨドミ 雄二、(一八九八年六月)

五、同 同(二五〇尋) 雄一、(一八九五年三月)

濠州フキジ一群島等に産するものは腹部第二第三節にも小さき棘を突出せるものありといふ又シーボルト採品中に

も同様の棘を有せるものありと記すれども實際其圖譜には之れを描かずオルトマン氏所檢の標本にも亦此等の棘の多少により二様ありと記せり鉗の下縁の齒も往々四個のものあり、かくてビハガニには地方によりて多少の變種あるを免れざるが如し

朝鮮近海にて採られたる標品にてマイアース氏が *L. elongata* (Proc. zool. soc. Lond., 1879, p. 46.) と命名し置くものあれどもオルトマン氏は是れ亦ビハガニの一の地方變種と鑑定せり



ながびしなげと
鉗ニ並西背殻甲

(217)

(一) ながびしなげに *L. integra*, sp. nov.
相摸洋ヨドミ(百五十尋) 雄一、(一八九八年六月臨海實驗場澳手 熊吉)

日本蟹類通説(寺崎)

甲殼の兩脇は平滑にして一對の銳棘を生ずることなし、額部も狭小にして一見して前種と異なるを知る其他の部分に異狀なし確かに一新種と見做すの價あり
因に記す琵琶蟹屬にて世界に産するもの左の三種あるのみ

- (イ) *Lyreidus tridentatus*, du Haan 太平洋西部
- (ロ) *L. elongatus*, Miers. 朝鮮近海 } びは
- (ハ) *L. Bairdi*, I. Smith. 太平洋米國沿岸 } ながびしなげ
- (ニ) *L. integra*, sp. nov. 太平洋相摸洋(とげ

ながびしなげ)
尚ほ本族に隸して印度太平洋方面に産すといふもの左の諸屬あり

- Raninoides*, M.—Edw. *Notopus*, d. H.
- Notopoides*, Henderson. *Cosmonotus*, Ad. Wll.
- Zanchifer*, Henderson.

◎拳蟹族

Leucosinidae, Dana, 1852.

甲殼は半球狀に隆起して一般に強固に構造せられ腹節の

(218)

日本蟹類通説(寺崎)

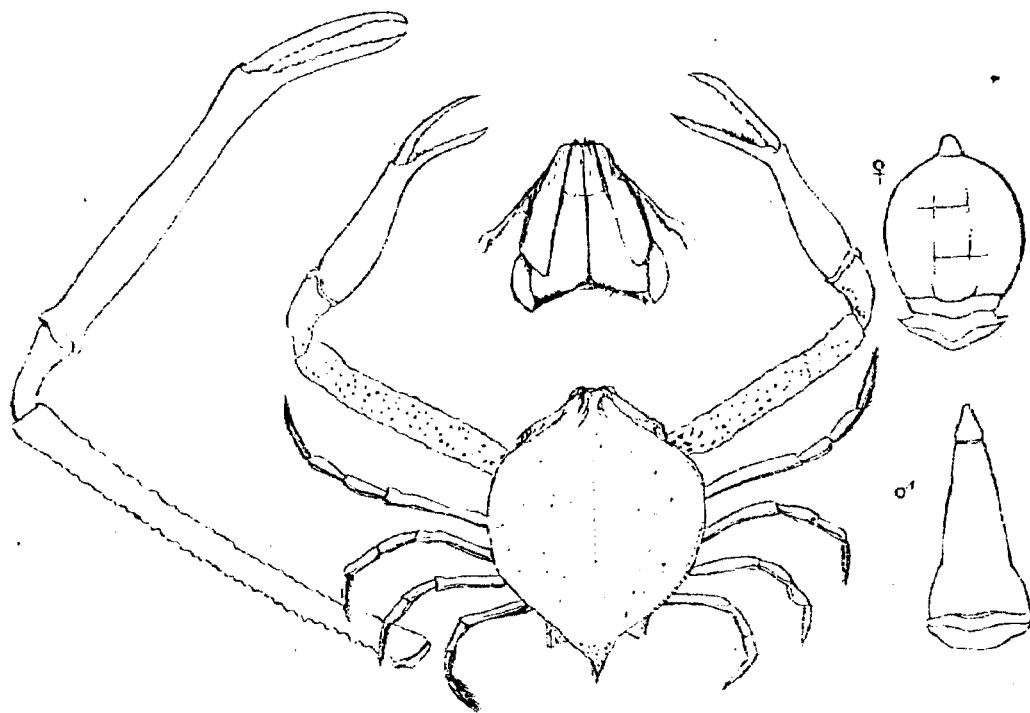
如きも多少相癒合密着し雌雄共に平素は胸壁に密適す故に體の外観宛も礫粒の如し鉗節左右平等にして扁平ならず又饅頭蟹の如く體に密適すること能はず

鰓室に通ずる吸水孔は口腔の外上側に開き頰部に偏在することなく外顎脚は跗節長三角形にして左右相接比して口腔を全く閉塞す、次節は細小にして兩跗節の内側に隱伏す眼は一般に小さくして觸角並に之れを容るゝの竇も亦概して微弱なり本族に隸するもの種類頗る夥しく分類も亦從て複雑せり

● 棘拳蟹屬

Arcania, Bouch, 1817.

甲殼球狀若くは稍菱形を帯び粟粒若くは密生せる短棘を以て掩はれ脇、腰、尻、の邊縁共に棘を以て保護せらる額部稍や抽出して先頭双岐す眼小にして額並に眼窩外側の小棘とによりて保護せられ、腹部雄にありては第二第三の兩節癒合せり鉗の根基稍や膨大せるを常とす印度太平洋方面の深海に棲む



す示を脚顎外に並 (大然自) 部腹雄雌形全 にかしぶこげとちいうじ

(一) ながしぶこげこぶしがに

A. undecim-spinosa, de Haan, 1835.

引用原書 Siebold, Fan. Jap. Crust., p. 135. pl.

XXXIII. fig. 8.

甲背は硬き粟粒にて掩はれ鰓部と心臓肝腸部との縫線明かにして肩部に一対、兩脇に一対、其中間に短き一対、腰部に一対、甲尻に一対其中央に一個、總て併せて十一個の棘を具ふ鉗脚にも硬き粟粒を具ふ

一、越後新潟 雄一、(一八九六年七月片岡鶴弼氏)

二、備後鞆津 雌一、

(二) なごごげこぶしがに

? *A. septem-spinosa (Fabr.), Miers, 1886.*

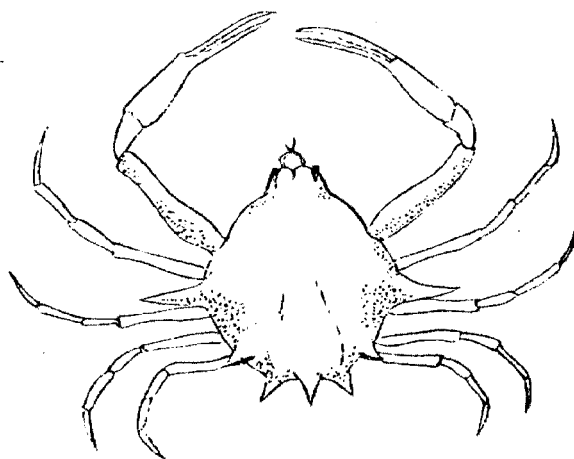
|| *Cancer septem-spinosa. Fabricius, 1798.*

|| *Ipnis septem-spinosa, Leach, 1817.*

引用書不充分にして鑑定確實ならず姑く疑問のまゝに存す

(219) 甲背一様に微細の粟粒を生じ鮫肌をなす一対の脇棘長く發育して聊か後方に傾き尙ほ甲尻に五個の短き鋭棘を備

日本蟹類通説(寺崎)



ながしぶこげこぶしがに
(大 然 自)

ふ之れがため甲殻は稍菱形を呈す而して前種の如き背上の縫溝は殆んど見る能はず雌は皮殻比較的薄弱にして棘並に額部稍短かし

一、和泉岸和田 雄一、(一八九九年七月栗山昇平氏)

二、備中頼島 雄二、雌一、

三、豊後大分 雌一、(一八九九年三月寺崎留吉)

(三) ひめとげこぶしがに

今一種本屬の特徴を具備せる小形の蟹あり種名確定し難

(220)

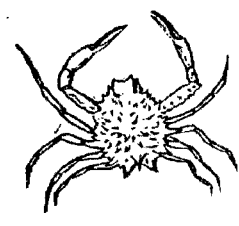
ひめとげこぶしがに し、甲殻一般に短棘を密生し

鉗は前種より稍太し

一、相模三浦半島松輪沖

幼雄一、(一八九八年一月)

谷次郎氏)



(大然自)

●手長拳蟹屬

Myra, Leach, 1817.

甲殻背上隆起して往々背稜をなす兩脇正しく弓曲し甲尻には三箇の疣棘を具ふ頰の部分にも稜角線を呈す額少く窪み口腔は其直下まで来る眼窩小くして背面に向ひ深き切溝を劃す腹部は第一第二並に末節とを除き殘餘は互に相固着せり故に總て四環節を以て成る、眼並に觸角極めて小し鉗脚の各節概ね圓棒狀、鉗節に至るに従ひ漸次扁平となる歩脚比較的に纖弱なり印度太平洋方面に産す

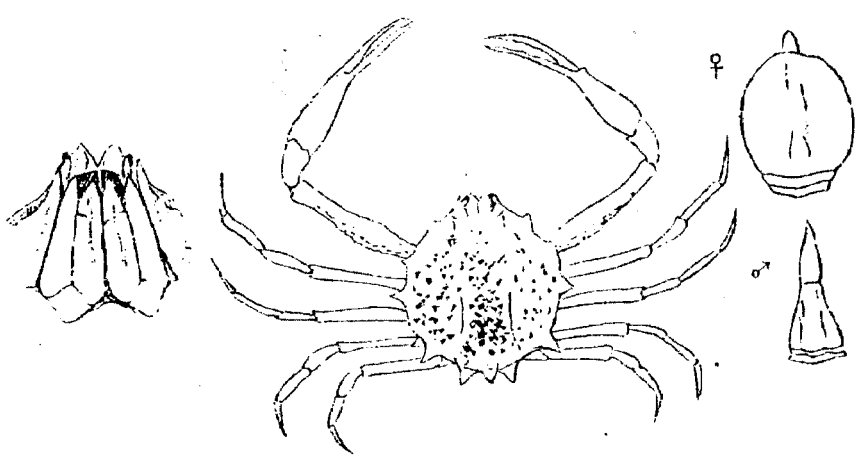
()てながこぶしがに

M. fagax (Fabr.), Leach, 1817.

== *Leucosia fagax, Fabricius, 1798.*

引用書 Siebold, Fan. Jap. Crust., p. 138. pl. XXXIII. fig. 1.

鉗脚雄にありては著しく伸長し其第三節は稍粗き粟粒を以て掩はる、甲殻の脇側は粟粒の線を以て劃せらる、甲尻の棘は左右一對扁く中央の一個圓錐形にして其尖端翻



て全雌の形及が雄の脚外(大)に並を(大)に示す 鉗脚の節に限り 幼者は甲殻背稜明瞭にして 鉗脚稍や薄弱なり故に往々別種なりと誤認せし例も少からず

曲せりデハー ン氏は雄の腹節五節云々とあれども予が所檢の標本にては何れも四節に限る 幼者は甲殻背稜明瞭にして 鉗脚稍や薄弱なり故に往々別種なりと誤認せし例も少からず

Myra carinata, Bell, 1855.

M. subgranulata, Rossmann, 1877.

M. coakta, Hilgendorf, 1878.

M. dubia, Miers, 1879.

等の種名あるも概ね幼き標本を基として命じたるものなるが如く「チャレンジャ」號探検の際數多の標本を蒐集して比較したる結果全く同一種に歸着す可きこと明瞭となり尙ほ既往に遡れば林娜氏の *Cancer euphaeus*, 1766. 並にヘルプスト氏の *Cancer punctatus* 1782 亦恐くは同一種なるべしとぞ而てオルトマン氏は前記數個複名ものをも各變種と見做せるが如し

一、相摸三崎 雄一、(一八九八年四月オストン氏 O.C.5570 號)

二、同 江の島 雄二、

三、相摸洋字岩戸掛(三四〇尋) 雌一、(一八九五年五月)

四、和泉岸和田 雌一、(一八九九年栗山昇平氏)

五、備後鞆津 雄二、

六、對馬淺海灣 雄一、(一八九一年四月波江土田兩氏)

七、豊後大分 雌一、(一八九九年三月寺崎留吉)

(以下次號接 頁)

● 魚類の地理的分布の點より
觀察したる日本産の魚類に
就いて (完結)

ジョーダン博士述

動物の分布を支配する法則。動物分布を規定する諸法則は甚だ簡單なる三則に歸することを得べし

動物の各種^{スベシウス}は次の三ヶ條のことの無かりせば地球上至る所其持續に適當なる事情の存する所には分布さるべきものなり

(一) 某個體がある障礙のためにこれを超へて某地方に達する能はざること

(二) よし又該地方に達したりとするも某が適應の能力缺乏のため或は他類との生存競争激烈なる爲め或は又外界の破壊的事情のため種^{スベシウス}自身を持續するに困難なること

(三) 已に該地方に入り來り其種を持續せると爲すも適應

魚類の地理的分布の點より觀察したる日本産の魚類に就いて(ジョーダン)